

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第206号
20. 2 .24

表紙

・ワーカーズ・コレクティブを広げることとはエスコープ大阪を広げること

P3

・活動報告 王陽堂農園生産者訪問/エスチャンネル/ライフプラン講座
・職員紹介 ・生産者紹介

P2

・ワーカーズ・コレクティブ運動をひろげよう!

P4

・エスコープ大阪第6次中期計画
・エコロ給付状況報告
・子育てひろば案内
・理事会報告・おたよりネット・編集後記

ワーカーズ・コレクティブを広げることとは エスコープ大阪を広げること

ワーカーズ・コレクティブ(以下、W.Co)は、「あったらいいな」や「やってみたいな」といった暮らしに必要な「もの」や「サービス」を、同じ思いを持った仲間が集まって事業化し、必要な資金を出し合い(出資)、経営し、労働も担う働き方です。W.Coは雇う雇われる関係がなく、「働く人たちの協同組合」とも言われ、一人ひとりが主体的に仕事をする事で地域が豊かになることを願いながら事業をしています。そんなW.Coが連合会を組織し活動しています。

今回は「関西ワーカーズ・コレクティブ連合会」代表の中島紀子さんにお話を伺いました。

(聞き手:理事長 北辻 美樹)



関西ワーカーズ・コレクティブ連合会 代表
NPO法人 福祉ワーカーズほーぷ 理事
中島 紀子さん

連合して運動や事業を高める

北辻 2013年に前身の「ワーカーズ・コレクティブ近畿連絡会」が発展的活動休止をし、今後のW・C.O運動やW・C.O間連帯をどのようにすすめていくのかを考える「ワーカーズ・コレクティブ未来研究会」をW・C.Oの有志が集まり、エスコープ大阪も事務局支援をおこない立ち上げました。そして2015年6月に「関西ワーカーズ・コレクティブ連合会」が設立されました。現在、どのような活動を展開していますか。

中島 W・C.O運動をすすめるためにリーダーが定期的集まり、情報の共有や研修などをおこなってきました。長年仕事をしていると日々の業務に追われ、また新しいメンバーが多くなることで、W・C.Oの良さや理念を見失うこともあります。そこを再確認しようとした時に、業種は違えど同じ目的を持つW・C.O同士の集まりがあることにとても大きな意義を感じています。

W・C.O間で交流や研修、関西圏の生協訪問などを重ねる中で、お互いにW・C.OだからこそやれることやW・C.Oだからこそやりたい気持ちを確認できました。これからは関西W・C.O連合会でW・C.O同士お互いに高め合い、W・C.O運動をけん引していきます。

同じ理念をもつ生協とW・C.O

北辻 中島さんは「NPO法人 福祉ワーカーズほーぷ」で22年働いておられますが、現場ではどんな時にW・C.Oの良さを実感されますか。

中島 「ほーぷ」では、地域の誰もが住み慣れたところで安心して暮らし続けられる街づくりを目指して、介護・家事支援、通院・外出介助等のホームヘルプ事業、地域密着型のデイサービス事業、地域の方の居場所作り事業などをしています。W・C.Oは社長やオーナーがいらないので、すべてみんなで話し合っています。時には折り合いがつかない時もありますが、みんなで納得するまで話し合うのがW・C.Oの良いところだと思います。

今の日本社会の働き方には、多くの課題があります。W・C.Oのように労働者が事業に主体的にかかわり運営することで、解決できることが多くあると考えています。例えば他の職場では働き方が合わず、精神的にしんどくなり仕事が続かなかった人が、ここから働けるということもあります。

北辻 組合員が自ら運営に関わったり、相互扶助や協同する考えなど私たち生活協同組合の考えに通じると感じます。

相乗効果を生み出す展開を一緒に

北辻 関西W・C.O連合会としてこれから特に力を入れて取り組むべき課題と考えていることはありますか。

中島 もっとW・C.Oを内外にアピールして共に働く仲間を増やしたいと思っています。私たちはこの働き方をアピールすることがまだまだ足りていないと感じています。W・

C.Oの価値を明確にし、この仕事を評価してもらいたいのです。そのために、いろいろなツールやデータを集めて表現力を高めたいと思っています。

またW・C.Oの全国組織である「ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン(以下、WNJ)」と連携して情報を積極的に取り、関西のW・C.Oの活性化と拡大を目指していますが、外部団体との窓口になる事務局がないので、早くそこを立ち上げたいと考えています。

北辻 エスコープ大阪では地域づくりや運動を共にすすめるW・C.Oをはじめ市民団体や人々にとって生協は道具となっているか、なりえる存在か問い直し、その意味でもエスコープ大阪の組合員の数の力やけん引力などを高めていく必要があると考えています。そして運動仲間としてのグループ力を発揮できればと考えています。これまでのエスコープ大阪の組合員へのW・C.Oの周知活動はもちろん、今すすめている子育て支援や地域拠点づくり、地場野菜推進の地域チャレンジなどの組合員活動からうまれる新規事業をW・C.Oとして立ち上げたり、既存事業を外部化する時に業務委託先としてW・C.Oを優先する動きの中でW・C.Oを広げていきたいと考えています。またそのことがエスコープ大阪も広がっていくことにつながると考えています。

中島 そうですね、もっと相乗効果を生み出す展開を一緒に検討しすすめていければと思います。関西W・C.O連合会としてももっと、加入している団体はもちろん加入していないW・C.Oへのアプローチや連携強化、新規W・C.Oの立ち上げ支援をもっと積極的にすすめていくことでW・C.O全体が盛り上がり、課題解決につながっていく可能性が出てくると思います。

北辻 「これからも」ではなく、「これまで以上に」W・C.Oとエスコープ大阪を盛り上げていきたいと思います。

ワーカーズ・コレクティブ運動をひろげよう!

現在エスコープ大阪では、第6次中期計画で地域の拠点づくりをすすめています。そのなかで、組合員の主体的参加運営での「子育てひろば」、「子ども食堂」、「〇〇カフェ」、「荷受け(大型班)」や「困りごとの相談(介護、子育て、健康)などが生まれ、そこから派生・発展するワーカーズ・コレクティブ(以下、W.Co)の誕生も期待しています。エスコープ大阪では今後も働く場づくりをすすめていくために、今活動しているW.Coとの連携が重要と考えています。



エスコープ大阪とW・Coの関係

エスコープ大阪と関連するW・Coは、生協の業務受託先として配達W・Co4団体、店舗運営W・Co1団体、電話受付業務W・Co1団体、機関紙などを作成するW・Co1団体があり、エスコープ大阪の事業の約30%を担っています。また、エスコープ大阪と連携しながらも自立した団体として、福祉W・Co5団体、配食W・Co2団体、福祉カフェ事業1団体があります。

配達W・Coは班配達時に受け取りができない組合員に届けてあげるといって、組合員ごとの助け合い活動があり、それが発展して1990年代に始まりました。

また、福祉助け合いのW・Coは1995年の阪神淡路大震災を契機に、「何かあった時には遠くの血縁より身近な地域での助け合いが必要」と当時の地域委員会が主導し、各地域に一つ福祉W・

Coを生み出すことをすすめました。

取り組みの視点は生協と同じ

2000年に始まった介護保険制度より以前にすでに取り組みが開始され、福祉W・CoのなかにはNPOなどの法人格を取得し介護保険事業をおこなうところも出てきました。50年間にわたり食や環境を重視してきたエスコープ大阪が福祉事業をすすめるなかで、食への質や環境に配慮した取り組みの視点をW・Coが持つことは必然でした。高齢者介護や障がい者支援でも生協食材をできるだけ使用することや、せっけん製品を使うなど生協方針と同様の視点を取り入れています。

私がしてほしいと思うことが始まりです

W・Coでおこなっているサービスは、スタッフ自身が先々必要になった時に受けたたいサービスを提供しています。W・Coとは地域に必要なサービスを地域住民が自ら生み出すしくみです。先々の私が必要とするものを、今動ける私が集まって作っておこうという考えからスタートしています。単に働き方改革のように働きやすさや自由度を認めるということだけではなく、自分のために行動するところが結果的に多くの人のためになるという、協同組合の考えそのものを具現化しています。



「W.Co キッチンよりあい」のワーク風景

働く場としてのW・Co

W・Coは二人以上が集まれば設立することができ、定年もありません。厚生労働省では働き方改革の改正案の検討が進められており、現在65歳まで雇用延長(再雇用含む)の事業者への義務化を、直接雇用だけでなく起業支援や関連会社への斡旋なども含め70歳までに徐々に上げていくことが議論されています。高齢者が仕事を通して社会に関われる仕組みは必要ですが、年金問題や少子高齢化の問題をすべて事業者でカバーすることは困難です。私たちがすでに実践している、W・Coという働き方を通して社会的に必要なサービスの提供をすすめる方法を有効的に使い、高齢者の労働を通じた社会参加を実現できればと思います。

関西W・Co連合会と共に

厚生労働省では働く場づくりを強調していますが、一方でW・Coのような団体に法人格を持たせる法律を認めていません。W・Coの全国組織である「ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン」(WNJ)と私たち生活クラブ生協は連携し、20年以上にわたり「W・Co法」の法制化に取り組んできましたが実現しませんでした。一昨年より新たにW・Co法に代わる「労働者協同組合合法」の協議がすすみ、今年度の国会に提出される予定でしたが遅れています。提出される予定の「労働者協同組合合法」ではW・Coの理念である「みんなが出資しみんなが働く(雇)立場でも雇われる立場でもない」ということは認められていませんが、経営側としての代表理事以外の理事は労働法^{※2}の適応が可

能になるなど、成立を目指していたW・Co法の内容が部分的に盛り込まれています。現在W・Coには適応される法律がないため法人格が無く、事業に必要な資産の購入なども代表者の個人名義でしかできない状況です。W・Coでは事業をすすめるため便宜的に会社法やNPO法を使っている場合もあります。NPO法が成立すれば選任肢が一つ増えることとなります。

エスコープ大阪としてもW・Coの法整備に協力するとともに、関西W・Co連合会と協働で新たなW・Coをつみ出すなど、住みやすい地域づくりをすすめていきます。

【※1】1995年にW・Coの全国組織として設立される。W・Coの拡大を支援するとともにそのネットワーク化を図り、社会的認知を高め、法制化へ向けて活動することを目的とする。

【※2】労働関係および労働者の地位の保護・向上を規整する法の総称。

■エスコープ大阪とエスコープ大阪関連W.Coの動き

	エスコープ大阪の動き	エスコープ大阪関連W.Coの動き
1970年代	1970 ・泉北生協設立	
1980年代	1984 ・第1次中計「地域に新しい流通をつくろう」SP(ストックポイント)づくり 1986 ・25人班(大型班)の選任当番制	・個人配達開始(委託職員として)
1990年代	1994 ・個人配達W.Co「ファント」、「ステップ」、「プラスワン」、「かぐや姫」、「あすか」設立 ・個配W.Co連絡会開始 ・情報W.Co「ら・しーさ」設立 1995 1996 ・「福祉元年」 1997 1998	・個人配達W.Co「ファント」、「ステップ」、「プラスワン」、「かぐや姫」、「あすか」設立 ・個配W.Co連絡会開始 ・情報W.Co「ら・しーさ」設立 ・W.Co近畿連絡会設立 ・個配W.Co「ウイズ」設立 ・情報W.Co「バックプランニング」設立 ・福祉W.Co「はんど」、「円」、「オアシス」設立 ・個配W.Co「コスモス」設立 ・福祉W.Co「なごみ」、「あゆみ」、「狭山」、「泉ヶ丘ホープ」設立
2000年代	2000 2001 2003 ・介護保険事業開始 ・支援費サービス(障がい者自立支援事業)を開始 ・街づくり夢基金の呼びかけ人となる	・福祉W.Co「いぶぎ」設立 ・食事づくりW.Co「キッチンよりあい」設立 ・福祉W.Co連絡会開始
2010年代	2010 2015 2016 2019	・配食W.Co「つむぎ屋」設立 ・関西W.Co連合会設立 ・電話番W.Co「ふろんと」設立 ・福祉カフェW.Co「はんどtoはんど」設立
2020年代	2020	関西圏のW.Co運動推進に関する共同声明に向けての協議



第9回 理事会報告 <1月8日>

【11月度決算報告】

- 供給高 2億2,316万円(前年同月比102.3%)
- 組合員数 19,619名(前月比+60)
- 一人あたりの出資金 80,308円

【12月の放射能検査結果】

連合消費材731検体、エスコープ大阪独自の消費材2検体の放射能検査を実施しました。生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

①個人情報保護ポリシーの変更(追記)についての提案

【協議事項】

- ①泉北ニュータウン地域理事選出に向けた動きについて
- ②2020年度エスコープ大阪方針案の決定
- ③2020年度方針新加入者フォロー
- ④2020年度「生活クラブでんき」契約目標数
- ⑤設立50周年ロゴマークの決定
- ⑥「(仮)第一次生活クラブ2030行動宣言」(案)に対する単協意見提出
- ⑦2021年度以降の東日本大震災支援の方向性の単協意見提出
- ⑧食肉類の試食会等に伴う食中毒予防マニュアルの運用について
- ⑨3月GM・ゲノム学習会について
- ⑩エコロ制度おすすめ強化月間のまとめ
- ⑪NPO法人Wco.FPの会への推薦について
- ⑫エスチャンネルの進め方

【報告承認事項】

- ①2020年度エスコープ大阪まつり
- ②エスコープ大阪50周年記念式典の会場決定と開催日程について
- ③女川原発2号機再稼働審査に対するパブリックコメントの提出
- ④みなともネットへの参加
- ⑤エコロ制度(集団託児)の事務手続きについて提案(事務局案)



エコロ制度 1月度報告

加入者数 1,301名

給付状況	件数
組合員活動を支えるためのケア	3件
組合員活動中の共同購入品受け取りケア	0件
加入者本人の入院・通院・在宅療養に伴うケア	2件
加入者家族の入院・通院・在宅療養に伴うケア	0件
加入者本人の産前産後のケア	0件
長期に留守をする時のケア	0件
リフレッシュのためのケア	0件
儀式・行事に伴うケア	2件
高齢の加入者をサポートするケア	6件



エスコープ大阪の子育てひろば

日時	会場
3月18日(水) 10～12時	大阪狭山市立公民館 (河内長野・大阪狭山地域)
3月17日(火) 10～12時	さつき野東集会所(南河内地域)
3月12日(木) 10～12時	泉佐野市立生涯学習センター(泉州地域)
3月24日(火) 10～12時	和泉市コミュニティセンター (泉州地域)
3月26日(木) 10～12時	ファインプラザ大阪(泉北NT地域)

- *開催時間内であればいつ来ても、帰ってもOK
- *組合員でないお友達との参加もOK *事前申し込みは不要
- *参加費100円(大人のみ)をいただきます

【お詫び】205号「私たちの生産者」コーナーに記載した大矢商店のこんにゃく芋は茨城県産ではなく、正しくは「栃木県産」でした。お詫びして訂正します。

編集後記

大学2年の娘が1歳になった頃に「個配W.Co.WITH」で働きはじめ、約5年動きました。全員が出席する毎月の会議で話し合い、みんなで経営していました。週1回の配達時や研修で先輩ワーカーからいろんなことを教わりました。この時期に協同組合の本質的なことが体に染み付いたように思います。(O)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co.バックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

https://s-osaka.seikatsuclub.coop/

エスコープ大阪では第6次中期計画として、いろいろなことを生み出すための基礎づくりをすすめていきます。「人が人としていきいきと生きていける持続可能な社会をつくる」ために、またその活動を広げていくためのヒト・コト・モノ・ハコをつくり出します。

今回は中期計画の実行方針である「平和について考える機会をもちます」から、社会的経済の視点で平和について考えます。



平和について「社会的経済」の視点で考える

私たちがすすめている取り組みはまさに「社会的経済」

グローバル経済に起因していると思われる政治と経済の軋轢(あつれき)が世界規模ですすんでいます。昨年後半からは私たちに多発しています。経済の仕組みの行き詰まりは私たちの生活にも大きく影響しており、特に若年層の正規雇用の増加や高齢者の生活難は世界的な課題となっています。

国連がすすめる「SDGs(持続可能な開発目標)」は地球環境だけでなく「持続可能な経済をめざす」取り組みですが、人が人らしく生きるという人類の存続を課題としていると言えます。SDGsが掲げる「誰ひとり取り残さない」という言葉はそれを象徴しており、この目標を達成するためには市民の力が必要で、特に「社会的経済」と呼ばれる生協のような非営利組織の役割を重視しています。私たちに必要なのはなにも特別なことではなく、私たちの生協がこれまで作り出してきた「生産と消費の持続可能な取り組み」や「誰もが住み慣れた街で暮

らし続けることができる、福祉や助け合いの仕組みを広げていくことが必要です。

韓国原州との交流から見たもの

昨年11月に、2年ぶりにエスコープ大阪から韓国の原州を訪問しました。エスコープ大阪と20年の交流のある「原州協同社会経済ネットワーク」では、私たちとの交流から取り入れた社会的企業(日本でいうワーカーズ・コレクティブやNPO)の連帯をすすめ、人口30万人の街を変えようとしています。

原州市内では協同組合を含め、市民が起業した39の団体が行政や大学と連携して仕事を作り出しています。学校給食で地元食材を優先するなど、地域内の一次産業を維持・拡大したり医療や社会福祉のサービスを提供するなど、先々のこうありたい原州市のデザイン提案までしようとしています。この連帯に関わって



2019年原州訪問。「トゥルバルン社会的協同組合」にて

は地域内で社会的に必要なサービスの仕事をうみ出し、富の再配分と若年層や高齢層の働く場づくりをおこなうことは紛争の芽を摘むことにもつながり、戦争の無い社会を目指すことにもつながります。国を超えた草の根の市民交流が今こそ重要になると言えます。(専務理事 石川雅可年)

る市民は3万5千人で、人口の1割以上がこの取り組みに関わっており、若者が集まる街へと変わりつつあります。日本以上に競争社会が当たり前で、貧富の格差が大きい韓国において、お金のためだけに働かざるを得ない働き方を求める若者が増えていることを実感できました。国どうしの軋轢は宗教の影響だけでなく、税制により調整してきた富の集中と経済格差を抑える仕組みが働かなくなり、自国の経済のみを優先する国際関係の悪化から起こっています。原州のようにま

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

204号1面「ソーシャルファームに取り組み、農業の中に福祉を」を読んで

紙面モニター Bさん

以前より、日本の食料自給率40%以下、耕作放棄地の増加の問題については知っていましたが、ユニバーサル就労に関しては、全く知りませんでした。今回の記事を読み、ユニバーサル農業や、FEC自給ネットワークづくりについての取り組みはとても素晴らしいと感じました。こういう取り組みを日本全国で進めていけたら良いと思うと同時に、こういった題材を取り上げることで、ひとりでも多くの方が知るきっかけになれば良いと思いました。

204号2面「どう減らす？プラスチック」を読んで

紙面モニター Cさん

安くて便利という理由から、プラスチックが日常にあふれています。買っては捨て買っては捨て…と当たり前のようにはしていましたが、大変恐ろしいことだと実感しました。今すぐ、「プラスチックゼロ!!」とはいきませんが、自分に何ができるのかを考えて毎日をごしたいです。

Ripple おたよりネット

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメロで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
206号(2020.2.24)